

# 熊取のだんじり祭

熊取のだんじりは、いつから祭りに曳き出されるようになったか明らかではありませんが、天保12年(1841)の「熊取谷檀尻書上げ」(中家文書)に五門・小垣内・宮・大久保・小谷・七山・和田・朝代の8ヵ村がだんじりを所有していたことがわかっています。この史料からは、大久保のだんじりが文化2年(1805)に製作され最も古く、和田・朝代のだんじりが荷だんじり(担ぎだんじり)であることが記されています。また、このうち5台のだんじりは、文化・文政の頃に製作されています。

当時、岸和田藩領の村々では相次いでだんじりが作られ、祭りも盛んに行われていたようです。しかし、祭りが華やかになりすぎたためか、文政12年(1829)、岸和田藩は祭りにだんじりを曳き出すことを禁止しています。(荷だんじり:にないだんじり)



「摂津名所図会」(臨川書店刊)

この挿絵は、江戸時代の地誌「摂津名所図会」にある「夏祭車楽囃子(なつまつりだんじりばやし)」です。

当時のだんじり祭に参加する人たちの様子がよくわかります。

また、江戸時代の終わりごろの岸和田の「桜井家所蔵文書」によると、熊取ではだんじりを「車楽」と表記していたと記載されています。

## くまとりだに だんじり かきあ 熊取谷檀尻書上げ

なかけもんじよ

天保12年(1841年)10月 中家文書



「熊取谷檀尻書上げ」(中家文書)

朝代のだんじりは、「往古より神躍(こおどり)の列に先例出し来り候云々」とあり、雨乞(あまごい)踊りである神踊りと深く関わっていたようです。

なお、その後のだんじりの歴史をひも解くと、大久保のだんじりが安政2年(1855)、沼町(岸和田市)に売却された記録があります。

現在、熊取のだんじりは明治、大正、昭和のはじめに製作されたもので、新調する以外は岸和田から購入していることを考えると興味深い史実といえます。

(小垣内、小谷のだんじりは平成20年代に新調されています)